

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく生き生きと生活して頂くように一人一人に合ったケアを目指し職員一同が誠心誠意努力しています。	施設内のいろいろな場所に理念を掲示し、職員の意識づけに努めている。理念を生かし、日々の状況を判断し、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コミュニティーハウスの活動参加し、職員が町内の旅行に参加、清掃草取り等の奉仕活動も参加しています。	町内会に加入し、敬老の日などの行事や清掃活動にも参加している。また、施設設備を開放し勉強会をするなど、地域との交流を積極的にやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に施設設備を開放しDVD鑑賞会や会議会合等の利用を支援しています。実習生の受入れのしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の運営推進会議を開催し事業計画・取組の詳細内容等の説明後に意見、要望等を伺い出来るだけ要望に答えられる様に配慮しています	参加者15~16名と多い。参加者から福祉や認知症について知りたいという意見があり、会議の時に在宅介護のDVDを見たり、勉強会をするなど新しい試みにより情報の発信源にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	倉敷市のいかなる要件も、施設長が窓口となり情報が内容の錯誤がないように、内容を俊敏に処理できるように対応しています。	行政との情報交換や相談は施設長が窓口となり行っている。地域包括支援センターは運営推進会議に参加してもらったり、電話で話したりすることが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園に前面道路が国道420号線で車の通行量も多く危険な為施錠は電子ロックをしていますが、園庭・畑・花壇もあり自由に散歩散策できる安全な環境を備えています。	身体拘束ゼロのハンドブックを職員全員が所持しており、施設内研修により理解を促し、いつも心がけながら支援をしている。2階のフロアからの階段が近く、転落防止のため木の柵を使っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	全職員が高齢者虐待の勉強会や講習会に参加して、皆でさせない取組をスタッフ一同心掛け実施しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設でも、成年後見人は事例があり、本人、社会福祉士、弁護士、等の関係や連携の勉強会を実施しうまく支援出来ました。今後も機会があれば、講習会・勉強会を実施します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、施設長と管理者が立会重要事項説明後に質問を伺い同意・納得後に契約締結しています。解約時も同様に説明し、今後の予想される事例等についても管理者から説明して、以後の相談等もお聞きするように心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の会長と副会長は運営推進会議に参加して頂き意見や要望を述べて頂き参加者の皆さんで議論をしています。面接時に管理者より気になること、意見・要望・苦情を聞いています。意見を集約し家族会で検討、入所者家族報告しています。	玄関には意見箱を用意しているが、あまり使われていないため、面会時に必ず職員が声をかけ、利用者の日頃の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。また、家族会や運営推進会議に参加して頂き、意見交換を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回懇親会を開催し、施設長より事業計画・今後の方針等の説明を聞き、職員の意見や要望、質問等を聞くようにしています。職員に意見を聞く回覧を回す事も有ります。意見を集約し検討反映しています。	定期的に食事会を兼ねた懇親会を行っている。その場で一人ひとりの職員に自分の意見や提案、思い等を発表してもらおう場を設けており、その中で取り入れられるものは検討し、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・運営マニュアル・倫理綱領・服務規律・行動指針・職務権限規程・一日の業務・業務分担等に従いグループホーム長楽園の査定評価表により評価しています。評価表は、回覧し職員全員の確認同意の上で査定評価表を作成する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・講習会の参加及び個人指導後に、管理者が日常業務上で確認する。その他、評価表により管理者が確認し施設長に報告し個人の努力を促し注意する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療連携施設の勉強会に参加させていただき、講師をお願いして勉強会を開催し、近隣の方も勉強会に参加されたり、DVDで研修会を実施しています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込書と診断書が届いた段階で、関係者より情報提供を頂き後に、入所予定者と面接を行い本人の希望・意向をよく確認し、施設サービスについての説明を十分に行い納得の上で、入所して頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時に十分に説明し質疑・応答と納得の上契約して頂き、入所後いつでも質疑・応答・苦情・相談等なんでも気軽に相談出来る様な環境作りに心掛け実施しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・介護支援専門員が本人や家族対応に当り、思いや相談や困っていることを確認し吸い上げてケア会議でサービスのケアプランを話し合確認致します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事への作業参加を呼び掛けて参加を促し出来ない事や出来ない人への援助や支援をお願いしています。作業の分担や係を決めてやりがい、生きがい、達成感を感じていただく様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に月末にお便りを送付し毎日の様子をお知らせしています。面会時は、ご家族に利用者様の様子や有りようを説明し、職員の思いを伝えています。今後の問題点についても協議しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや買い物も、近くのいつも同じ場所へも、出かけて、なじみの関係の継続に配慮しています。ドライブ等で近くに行く時は、ご自宅により寛いで頂くことも有ります。	週1回は利用者と一緒に近くのスーパーに買い物に行ったり、ドライブが好きな人と近隣を回ったりしている。受診の帰りに、自宅に寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	TVの番組も異なる番組の希望により意見が分かされると、仲良くニカ所で見て頂き又元の場所に戻る事が出来るように、ニカ所にTVを設置しています。職員が一人に孤立しない様に声かけをしたり、仲介をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎日の暮らしの様子を介護職員がお便りに記入し月末に締め切り家族に送付します。面会訪問の少ない家族様にも現状の把握と要望・対応・意見を伺い対応と一緒に考え相互で支援をするように心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情・発言等日々の関わりの中での声えかけで一人一人の思いや希望を把握しています。ほかには、日常生活援助中に重要な発見や気づきも、ノートに記入し職員が共有できる様に心がけています。	日々のかかわりの中で、その日の表情、顔色の観察や会話、行動等を把握し、統一したケアを行えるよう努めている。利用者が自分の気持ちをうまく表現できない事も多いので、職員はサインを見逃さないよう気づきノートや連絡ノートに記入し、情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活歴をお聞きしています。面会時にも伺います。より多くの情報をお聞きしてその人に合った生活を送っていただき、一人一人の生活歴をふまえてその方を理解し生き生きと生活できるように支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズム・習慣・残存能力・思想等を把握し職員全員がノートに記録して、周知確認して生活支援の参考にして対応にあたっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の思いやご意見を管理者が伺い、各人の現状を介護職員全員で意見交換後に、ケア会議を行い介護計画書を作成し、家族から同意をいただく。	基本的に月1回のケア会議にて意見交換し、介護計画を作成し、6ヶ月毎の見直しを行っている。変更時は随時見直しを行っている。また、主治医や訪問看護師に身体状況の確認や相談を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や気づきノートを職員が一人一人の暮らしの様子を記入し情報を共有しながら日常生活の生かしています。介護計画の見直しの基本も参考にいたします。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の状況・要望に応じて受診や郵便物の窓口や諸手続の代行等家族の要望にできる限り、他の業務に支障を来さぬように答えていきたいと思えます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	倉敷市立中央図書館より移動図書の貸し出しを受けています。期間は2ヶ月で100冊を借り受けて皆さんご利用を楽しんでおられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人や家族に受診の希望やこだわりを確認し、協力医療機関で訪問看護をお願いしています。水島南診療所の隔週の往診を受けていただいています。歯科は、児島歯科診療所の往診で対応しています。	2週間に1回、協力医の往診、週1回訪問看護を依頼している。また、24時間体制で協力医と連携ができており、適切な医療が提供されている。入院が必要な時には、希望に添って円滑に手続きが行われ、家族も安心することができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は医療連携の水島南診療所で、毎週火曜日にこられて、隔週の往診にも同行されて、入所者や職員もなじみの関係作りもできて、日々の健康管理や状態の把握もよくできていて安心です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が同行し、入院者の日常生活の状況や情報を病院に提供します。必要時には、管理者が対応し情報のやりとりを行います。入院する病院は、水島協同病院で、医療連携の病院なので関係づくりも日頃からできています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の指針を確認しています。看取りの事例はあります。ご家族と医療機関と管理者と施設長が、家族が本人意向をふまえ相談し相互に協力体制で、意思が統合できれば受け入れます。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、家族、職員が話し合い、より安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。過去に2回終末期ケアを体験しており、職員も大変ではあったが、得るものも大きく、一回り成長したと感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	私たちのGHIは、救マークを取得しています。職員のほとんどの方が2年おきに更新し、救命救急講習受講者です。再受講者がほとんどです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災避難訓練と火災避難訓練を実施しています。地元消防団の運営推進会議への参加と非常時の対応についての打ち合わせ、近隣住民有志の非常時の救援活動参加の要請も出ています。	年2回消防訓練を行っている。ほとんどの職員が非常救命救急士の交流を受けており、救命スタッフ常駐認定施設となっている。また、防火シャッターやスプリンクラーの設置を行ったり、非常時の水を備蓄するなど防災意識が高い。	地域住民や警察署等との連携を図り、事業所の災害訓練に関する理解を求め、協力体制を築いていくと同時に、災害時の対策などについて地域に働きかける拠点となってもらえることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員誰よりも、一人一人の方が人生の大先輩であり尊敬の念を持って接しています。失禁・漏便・失敗等見られるときも他者にわからないように配慮対応しています。	その人に応じて、声かけの方法を工夫し、変えている。男性の方は特に気を付けて接している。また、個室には鍵があり、部屋から出てフロアに行く時に、自分で鍵をかける方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人のその日の顔色や表情、反応を注意深く読みとり利用者から職員に自分の思いを伝えられる様に、声かけや配慮をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や意思を尊重し入浴や散歩の声かけをしています。本人の希望や訴えに傾聴し意思の疎通をはかっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝人によっては、起床時には、自分で洋服を選ばれ着られたり、洗顔時には、化粧水を使用されたり、頭髮については、希望される様に美容支援を職員で行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で野菜の収穫を楽しみながらメニューを工夫し、また調理の下ごしらえも手伝っていただいたりと、職員と一緒に楽しい食事時間となっていない。食事については食事の安全の認識の可能な方に限ります。	下処理や畑の収穫、包丁研ぎなど本人の得意な分野で手伝ってもらっている。毎年、利用者と一緒に梅干しを作っており、楽しみになっている。食事はその人に合わせた椅子を使ったり、机の高さや場所も配慮し、おいしく食事ができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人一人の体調と食事摂取量を把握しバランスの良い食事を提供しています。食事、おやつ時ともに水分量を把握して脱水症状にならない注意をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアをいただき、自分で出来ない人は、口腔ケアスポンジ等を使い支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、一人一人の排泄パターンを把握し時間を見てトイレ誘導しています。失禁時の対応は、本人が傷つかないように、他者に気づかれないように配慮し対応しています。	排泄チェックを日めくりカレンダーに記入し排泄パターンを把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。夜間もできるだけ声をかけ、トイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の対応として食材やメニューを工夫しています。自然排便が難しい方は、散歩や体操や水分摂取の声かけを積極的に行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望と体調を考慮して入浴していただきます。入浴拒否される方には、声えかけや対応に工夫をし再三声かけすることで、入浴される方もおられます。	基本的に週3～4回入浴して頂くが、本人の希望により毎日入浴されている方もいる。入浴が身体的に負担になる方もおられるので、バイタルチェックにより体調を把握し、無理のないように入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転で、夜間不眠で日中傾眠される方は日中活動的に過ごしていただき、正常に体内時計を調整していただき、それでも寝付かれない時は、暖かい飲み物を飲んでいただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人の服薬表について薬の内容を把握しています。薬の変更は、申し送りノートに記載確認し、体長変化等が見られるときは、医療機関に連絡いたします。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみ事や役割作りをしています。花の水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、お膳ふき等、一人一人のやりがいや達成感や生き甲斐を見つけていただく様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆で買い物やドライブ以外に、一人一人の希望に添って外出を楽しむ様に、家族とも連絡を取り合って支援しています。	施設の園庭、畑が広く、天気がいい日は外でお茶会をすることもある。また、お花見や紅葉見学など季節に応じて企画している。また、買い物やドライブなども日常的に行っているが、外出をして環境が変わると落ち着かない人もいるので、希望する人を中心に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はもって管理できていましたが、管理が出来ずトラブルが多くなり、盗られた、盗ったの人間関係で共同生活を乱す事が多くあり、持つ必要もないお金を持つ人間関係を悪化させる必要があるのかな？		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員がついて、ご自分で電話をされたり、ご家族や友人にハガキを書いて職員が出しています。年末には年賀状を職員が家族宛に書き、入所者本人が添え書きをしていただくようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体が広々としていて、景色や風通しや日当たりが良く、環境では、広い園庭や畑や駐車上の設備があり、安心して園内散策で十分運動やストレス解消の楽しみが出来ます。	施設内は掃除や臭いの対策にも力を入れており、とても衛生的である。移動図書館により3カ月毎に100冊の本を交換しており、利用者の楽しみとなっている。2階はベランダが広く、椅子を出して日光浴をして気分転換ができる。また、2階には看板犬がおり、みんなの癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールと休憩室にTVを設置しTV番組の重複時も対応可能です。応接セットの配置も出来ていて6人位までのグループ活動が可能です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や思いでの品や写真や使いたれた品等をご家族に持ち込むようお願いしています。	利用者が安全で動きやすいようにベッドやタンスなど配置されており、すっきりしている。本人がはおりものを選ぶこともできるよう、ハンガーラックには常に洋服がかけられている。家族に自宅で使用していた物など持って来てもらうようお願いしているが、なかなか進んでいない状況がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行動の妨げにならないように配慮し環境整備に努めています。トイレや浴室に目印をつけています。		